





本草図譜 卷之十一

同	一種	樟腦	薰褥香	麝糖香	蘇合香	質汗
九種 物印忙の圖		ムネの系	同上	不詳	物印忙の圖	不詳
廿六					廿三	
	一種	阿魏	龍腦香	結殺	一種	安息香
		あだん	そら	同上	同上	同上
			物印忙の圖			
		廿七	廿六			

沒藥	薰陸香乳香	必粟香	一種	烏藥	釣樟	樟	降真香	楠
同上	物印忙の圖	不詳			ムネの系	ムネの系	不詳	
駝隣竭	一種	楓香脂	椽香	一種	一種	一種	一種	楠
同上	同上	とりわて	かこつら				細葉のもの	ムネの系





本草図譜 卷之八十一

本草図譜 卷之八十一

本草図譜卷之八十一

香水類

丁香

しょうど

百結花

振毒 随筆

索罨者

最勝

コロイドナリケル 薊 ナリケルホーハ 上  
リクムインケキスマ 薊 インケアンセホート 薊 上  
カリヨヒルリーメシト 薊 ムールナリケル 薊 上

東都岩崎常正著  
男岩崎信正校  
門人小山廣孝





本草図譜  
卷之八十一



本草図譜  
卷之八十一  
物印忙載し圖





和産印 東西洋考 小羅勃泥 荖門荖刺 未 密國 小香山 あり 滿山 荖丁香  
 可 而後 溪水 不隨 之山 の麓 多く 流れ 出る 也 拾ひ たり 中国 商人 不賣 云リ  
 然れ 八唐 山 不無 一と 見 和蘭 物 印 托 不圖 可 樹皮 黄色 葉 八柯 樹 又 橘  
 葉 八似 対 半 一 枝 の 梢 不 細 枝 を 令 七 數十 顆 を 結 不 蒂 長 一 未 烈 中 の子  
 顯 形 瑞 香 花 不似 黃 褐色 あり 馬 志 の説 不 丁香 生 交 廣 南 番 折 廣 外 國  
 上 丁香 樹 高 丈 餘 類 桂 葉 似 柯 葉 花 円 細 黄色 凌 冬 不凋 其 不 出 枝 其 上 如  
 釘 長 三四 分 紫色 不 云 能 之 説 不 合 不 又 曰 書 不 丁香 の花 の 圖 あり 枝 の 梢 不 二三  
 花 を開 形 錦 帶 花 不似 葉 綠色 淡 紅色 あり 五 六 の 瓣 あり 中 あり 淡 青色  
 の 莢 也 生 黄色 の 矣 あり 此 珣 の説 不 丁香 生 東 海 及 崑崙 國 二 月 三 月 花  
 開 紫 白色 不 云 不 合 大 和 本 草 不 荖 肆 不 煮 一 たり 滓 也 賣 也 あり 名 不  
 下 不 久 あり 香 薄 八 酒 不 似 せ 八 香 生 たり 云 丁香 八 別 小 貴 賤 あり  
 中 島 不 岳 位 の 貴 賤 あり 新 荖 桂 一 本 南 家 八 乾 たり 好 む 不 一 とも  
 賣 用 不 八 肥 大 あり 介 目 重 あり 好 む 八 焼 酒 或 八 濃 茶 也 灌 不 物 也 以 之

覆い一宿を經て取り出し肥大するも賣用とせしむ

丁香

丁香の樹皮 八田村氏の説 不 丁香 皮 の 形 肉 桂 の 如 く 厚 く 香 丁香 の 如  
 く して 烈 さい もの 八 爛 飯 丸 の 方 中 八 入 中 を 温 め 食 を 消 化 せ ず 即 あり  
 一 種 偽 物 の 丁香 皮 あり 外 八 丁香 の 香 氣 あり とも 肉 八 肉 桂 の 香 氣  
 あり とも 八 咬 嚼 八 肉 桂 也 以 之 偽 造 八 茶 用 八 入 へ たり 八 本 經 逢 蒙 八  
 八 丁香 皮 也 以 之 肉 桂 也 偽 造 八 あり とも 今 丁香 皮 少 あり 肉 桂 也 以 之 丁  
 皮 也 偽 造 八 古 八 大 不 異 あり とも 一

本草図譜 卷之八十二





本草図譜

卷之八十一

一種

蘭人シイホ作  
持来り物の圖  
天竺不産花  
品よし



丁香

一本の蘭書  
不載の圖其  
葉苗芋に似  
て穂の形は知  
俗稱は丁香  
出處は花に如  
く放幹節に  
紅紫色子も  
又紅色形の  
前圖に同じ



本草図譜

卷之八十一

三





一種

船木のてし葉の形柳の葉に  
似て大葉の葉小房を向て  
花を用く形小く前條の圖に似  
たり

本草図譜  
卷之十一  
四





鷄舌香

名釋

亭尖獨生

本草和名  
引丹に譯

舶来の実の圖長さ七八分して形極の実の如し  
鼻三凹辨あり紫褐色なり此品葉子の用不入肌菜  
用不入耳一葉は雷敷の説不雌者大如山サ茅更名  
母丁香とりて華夷花木珍玩考不唐本注を引  
て雞舌樹葉及皮並似葉花如梅花子似葉核此  
雌樹也不入香用と云ク

丁香

舶来の実の圖形はいろいろの花に  
似て紫褐色なり此品長さ五六  
分先小花の実の如きものあり  
香氣あり

鷄舌香

リクヌムインキスム

羅甸

インチアシマホト

荷南





本草図譜 卷之八十三

物印托小載る圖葉ハ楮ハ似こ互生し枝の間ハ実も結ぶ形石榴ハ似て小  
ありて黄褐色也

檀香

和産カ 檀香ハ惣名ナリて三種ハ分つ

白檀

摩羅度 諸

イリヤウス 名

白銀香 廣東 新註

欖檀 通

白檀ハ和漢通名ナリて舶来あり質柔ナリて脆く白色香強し止鳥  
云和名を護神香と云ふ白檀の上旨より出ると云ふ

黄檀

舶来の物ありこれをすめのあかると云黄色も帯るもの之又黄色ハ油色を帯るもの  
もありまと呼ぶ白檀黄檀の二品ハ上より下薬用及び香も用也

紫檀

紫 檜 廣東 新註

紫 梅 木 注 在 今

リイニセツテシク 蘭

ホウセントロ カリマテチルホウト 上 リグシムカリマテチル 羅 甸

古渡の物ハ木理細密ナリて甚だ堅く紫黑色之新渡の物ハ木理粗ナリて紅  
紫色之諸の器物ハ造る香気よく薬用ナリ用也とあり大知本草ハ狀ハ  
の云赤梅檀と云ふハ紫檀也(一)と云ふ

本草図譜 卷之八十三







楠

本草図譜 卷之八十三

うぐすくろを産  
 赤ゆるのき 武蔵 品川  
 かつだも あかしのき 西  
 お不のき 相模 鎌倉 あをのき 阿  
 ちろろがき  
 まうだも 八丈島草たしあり 対して 真たしと云

楠とは此物楠木 江戸又武蔵  
 東叡山其外ハイキウ葉ハサヨ草  
 小似て莖紫色夏月丁香不似  
 然る花も開き後夏も結ぶ不似  
 丁香も似たり熟し灰白色之  
 八丈小此根皮赤て間色を深  
 又此實も長尾とす材ハ舟木造  
 小堪と云ハリ





本草図譜  
卷之十一



葉ハ天竺桂に似たり短く  
互生して冬凋落し春  
新葉を生ず後宿  
葉落る葉も樟腦  
の氣あり夏月白色小  
少し黄色も帯ふ小花  
を円き円す実を結ぶ  
熟して黒色之樹の心  
の黒色之此樹を製して  
樟腦を採る

本草図譜  
卷之十一



樟  
くそけき  
せうのうわ  
らんやんわ  
朝腦 本草  
原始  
カムマル 虫語  
葉文





本草図譜



Small red circular seal or stamp at the bottom right of the left page.

本草図譜 卷之八十一

一種

葉の形前糸  
より細く長く  
花実とす小前  
糸と同一





本草図譜 卷之八十一



葉長く大いし  
柿の葉の如し  
硬し花実  
ろまの  
花

釣樟

つらまじ  
ちぢや  
信  
せうりのま  
西  
ねり  
前  
とろあ  
前



一種

山野に自生多し木皮淡  
緑なりと黒斑あり香気  
なく此木より牙枝を製  
し葉の柯樹に似て硬  
く生さるる春月葉  
小先て花を開く土丹  
黄色なり四五花  
生れ後実を結ぶ大さ  
南天の子の如し軟し  
熟し黒し

本草図譜 卷之八十一





烏藥

矮脚樟

物理小識

雪裡紅

同上

和産あり享保年中漢より天台烏薬と稱外烏  
 薬と二種渡り諸國臣園に栽せしむる今世上  
 より多し其台取烏薬は落不中より高さ八九尺根  
 の傍り多し斜修を生じ葉互生して形蘭桂の  
 似て円く小く三の縱道あり面深緑色なり  
 光沢あり背八微し白色を帯り三四月葉の同  
 小葉花を簇生し形状釣樟の花に似たり秋月  
 實を結ふ大さ冬青子の如く熟を紅紅色此實より  
 油を搾り燈に臭月へ根八余ホも異なり形色  
 戟の如く連珠をちん香氣ありて舶来は勝り  
 此物真解は獲頌の説に符合せり



本草圖譜  
 卷之八十一  
 矮脚樟





一種

天台衡列二種舩  
未の内の衡列の物  
あり樹葉の形状大  
甘烏茶に似て葉  
は長きあり樹葉生  
せしむ大樹とあり  
根は連珠をあらり  
常の樹根の如く香  
気薄し花実も又  
天台の物と異ふ  
るあり



舶来の烏茶多く陳久しして香氣薄し用ざる  
堪き物あり且新根を用むべし此内不ろく  
てと呼ぶもの根百部根の如くこれ集解の  
連珠の如しと云上品なり此物台外烏茶根と  
あり又持こと兵連珠をあらり常の樹根の如し此物上品





本草図譜 卷之八十一

一種

あろもど 光  
らんもど 京

のそむ 辨

あろま 及信

つらみ 外播

あろま 及豆

らつて 外芽



藏器の説一葉三種と云ふは古入此物を売つ山中小自生多し樹高き一丈許り二月頃ろ枝の梢小葉先つて花あり房を有て形釣樟に似て淡黄色葉互生一葉三種を有て形牽牛子の葉の如く老樹とあれハ内葉も又り生は冬月に至り落葉凡根連珠を有さる微香ありこれ又別種にあつた烏茶の一種あり文政九年末朝の蘭人シールポルト此物を同一ニサウサフラスにて神経を強壯しおれふ要茶ありと云々

樟香

かろもど

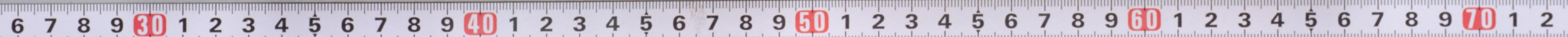
あろま

のそむ

あろま

葉の形胡桃に似て小く春葉の開花を生れ形胡桃の花の如く長く本は色を枯ふ椴の樹に似て円く大和本草に賤氏以て沈香と代と云々集解に葉小薊に似たりと云根又枳朮に似たりと云を信せ考かふルハのそむを花を産すと云

本草図譜 卷之八十一







本草圖譜  
卷之八  
十四  
標香





本草図譜

卷之八



周り不軟き刺あり熟せれば  
 褐色になりて落す此実も  
 焼ハ泡香の気あり葉晚  
 秋に至り黄色とありて散  
 落後ハ一ハ一ハあり

本草図譜

卷之八

十



楓 香脂  
 今大樹とあり高ニ三  
 丈に至る葉ハ大なりて掌  
 の如クニの尖りあり春の末  
 葉の本を花を生じ形ハ花  
 頗る似たり後実と結ハ形  
 悪実の如く

享保年中  
 公余不困  
 漢種をとり  
 与せられ東都  
 小種とせたる

其香 李華  
 原怡

よりのへて  
 楓 香脂

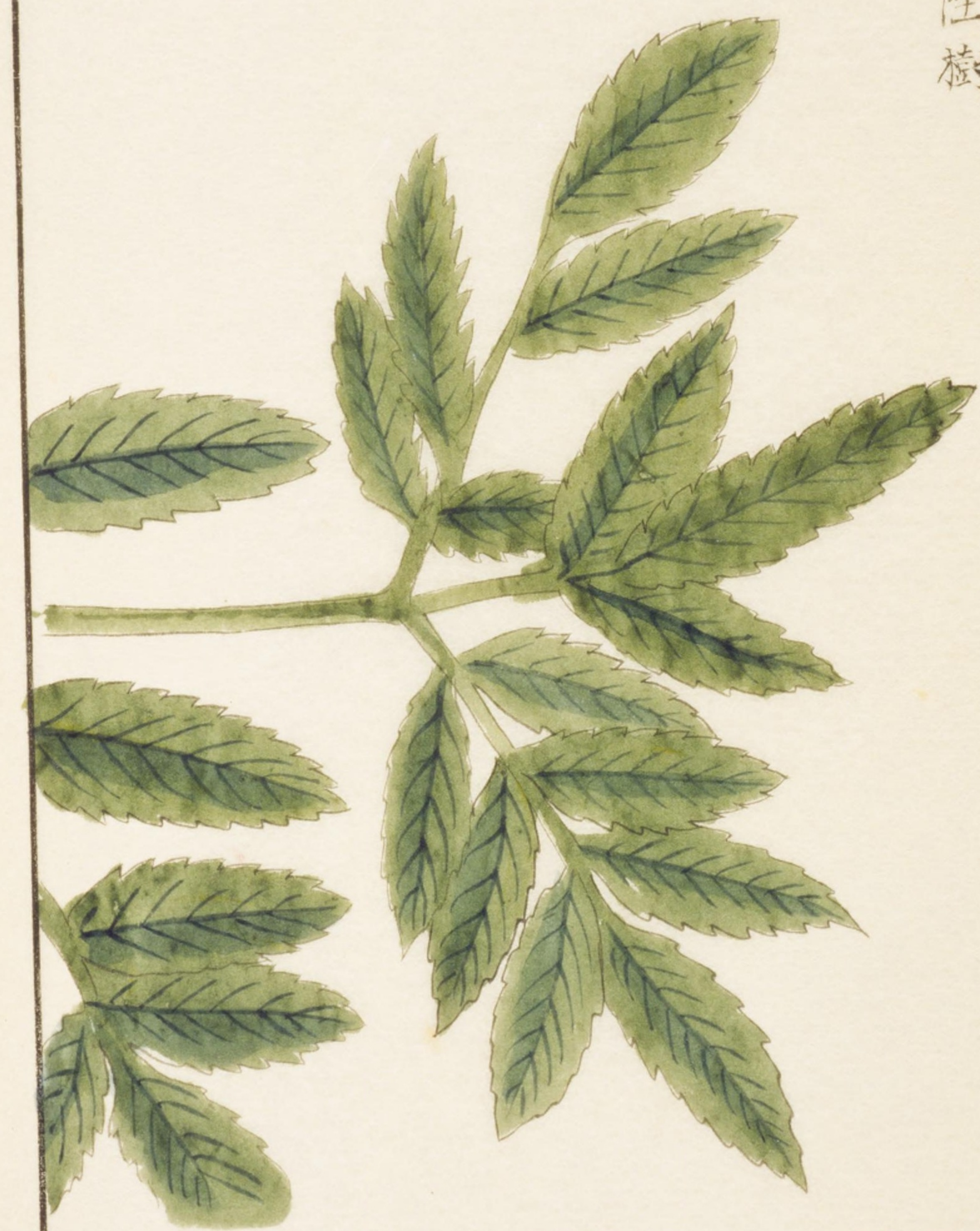








本草図譜 卷之八十一



薰陸樹

本草図譜 卷之八十一





一種

レンテスキユス  
マステキホーム  
蘭荷

同書に載る蘭葉の  
形竹葉椒に似て短  
く又兒使の葉に似  
て葉の直葉を生け  
る鹽鉄子の葉の如  
く葉の間隙を以て  
碎花を開き実を結  
ぶ山椒の如く紅色の



没薬

メイルウ  
又ツラハ  
蘭荷

メイルレ  
物印北

キコンミ  
大丸レ  
蘭荷

和漢共にふく故に集解の形状詳くふく物印北に載る圖を以て採る小葉の  
形葉の葉に似て互生し枝幹黄褐色なり葉の間に刺あり花実の形  
ハ番セさる之知へうり製衣茶の物舶来あり一揮ハわ 没薬と稱して塊大なる  
黄黑色なりて堅く土石よりなり味苦く香しこれ真物なりて茶用不  
上品の中島の説に唐蛮持渡す中琥珀色の如く透色あるを上品とれ然れを  
透様許り未だれ黒色なりて砂石を挟む大塊の中雜に合せて持来る是  
を藥肆に於て煉没薬と云真物なりて水脂より別し獲たり二種花没薬と  
稱する廣さ五六分長さ一寸許り扁さ子の如きもの重なり淡赤色なりて花印  
あり





本草図譜 12冊 寄別9121

10-246

本草図譜 卷之八十一



本草図譜 卷之八十一  
没藥



十九

国立国会図書館





騏驎竭

血結 蓮生

血 血 正外 正良

瓜 血 血 上日

バルマポリニハラ

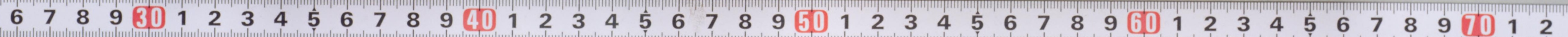
和蘭物 印忙

サンコイスグアエーニス 罇

タラケンフルート 中 荷 蘭 嶋

和漢共々、おく物印忙に載る。圖あり、樹高く、莖年ちて枝あつく、形棕櫚の如くありて、毛あり、樹の梢に数葉あつて、芭蕉の如く、其葉長さ数尺、周りに紅色あり、且て紋ありて、斜に紋あり、洋葱に似て、長大あり、此樹より出る脂液を以て騏驎竭を製し、船末の皿に眞臘國より出ると云、此中不ちまき、まきと稱せし、数品あり、中厚の説、此種の中、五つあり、結び連れる者、上品あり、又杖極ハ長さ、大さ共小状の者、是も蒲葵冬葉の類あり、包ミ藤を小く割ニ寸程同も置き、結びたる物之、皆極ハ右に准り、此二種最上上品、又盤極あり、状ち種あり、是ハ上品あり、右渡のこちまき、この中、黒色を常赤く光りあるものあり、此水も、細末あり、此水ハ鮮紅

色あり、これ上品あり、茶用ハ良あり、又新渡の物ハ長く包ミたるを大ちまきと稱し、小く包ミたるを小ちまきと云、これハ又大小、上段下段あり、又中用ハ包ミたるをむんむと云、此ハ下品、このれも包ミたる葉ハ騏驎竭あり、これを見、葉の長さを知り、とつて、船末の中、偽製物あり、或ハ包ミたるを、これハ、著葉、蒲葵、標桐葉、亦を用いたるものあり、葉解の説ハ、葉似櫻桃、而有三角と云、何物を以て騏驎竭と云、未だ詳あり、三角ありて、云説ハ、從て中古よりて、云木を充つ、此樹より、脂出れども、騏驎竭の偽りあり



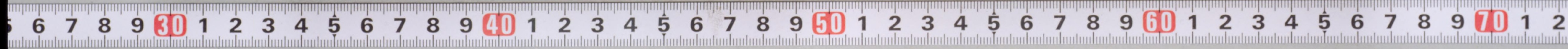


本草図譜 卷之八十一



馱麟竭

本草図譜 卷之八十一





ト子ウス不裁る  
 圖形前系子似て  
 梢子枝を分ち枝  
 の先子葉を生れ  
 又前系不似り  
 花ハ穂ツありて  
 生し田子実を  
 結ふ其色粉色  
 ありやく明ッふ  
 くれ



サ穂合香

ステイラクス羅

ストクラクス蘭

和漢ともふあく物印帳に圖あり葉の形ふとう小似て莖紅色面淡綠色背  
 淡黄色花実の形詳々ふら蘭山の説不舶来の物子塊をあれ者をサ穂合香と  
 云歟やうものをサ穂合油と云とつて田村氏の説ありこれ云ク葉用サ穂合  
 油を用こ可くと云

一種

曰上の圖莖紅色なりて葉生し形柳の葉に似て小き一梢に花あり形梅  
 花の如く白色不青色の節ありと云むらう如く莖葉黄色なりてすれ



本草図譜 卷之八十一



本草図譜 卷之八十一

廿種合香

一種

廿三





龍腦香

腦子方

却布羅

西域記

鷄

布羅香

慈恩傳

藥却布羅

梵誌

カンホウーホル子ーオー羅

カンフイヤ蘭

マツリインカヒヤアンマアウ

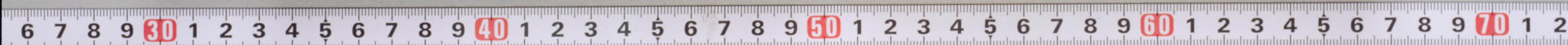
滿外方言

和産云々集解の諸説老杉より出ると云れども杉類の香あられ樟類の香ふ似たり先年龍腦の冥生を蘭人持来り其圖を見らふ葉の形壯柱の葉は似て薄く樟葉に似て長く三の縦道あり莖紅色なりて対生り葉間小枝も分ち房をふり細き枝も生り五瓣の小白花を開くこの物小由て本邦の物も考ふらゆめく石あからせし云々の樟の類なりてあり豆外志に嫩芽紅色樟腦殊に多し云々此品を試むるは極葉の香氣烈しく全く龍腦の香あり然れども亦れ小木にて腦を搗り試みざるは法せざれども先年蘭人よりホルトにあかきもの枝を見せしふもアルボル4種と云ふ由れり龍腦樹に法るといれ龍腦舶来の物も古く高麗産の物もすも漢渡の物を下とれ今然り漢土の物も色純白なりと軽く花片の如きもの梅花片と云香氣烈し其土あるものを大梅花と云これ本草岳始の龍腦又氷片也新度純白ありしと水色これ又土品又土



店にて樟腦を以て焼く一尺腦と稱し遠く用ひ宜しく

真物を擇み用ひ





本草図譜 卷之十一

樟 腦

樟の木の皮

朝 腦

本草 原註

樟 氷

外府正宗樟の樟の誤り

本邦にて薩那肥前を樟腦を製せ凡其法集解と異なり先づ生木の木心赤黒色を削りて細く小片とす又根も同く片とす其片を蒸籠に入れ釜のくま置き器を以て蓋とす土を以てのめをふり氣のまれのやうに竈より強く火を焼とき樟腦并りて器のつくと露珠の如く此れを竈より取りて冷むれば器内不腦を結りて水を取て用也此樟腦樹の前より作れりとのりくひ

阿 魏

そのく

本草 和名

阿 夷 散

西陽 雜俎

哈 昔 泥

通雅蒙 古の和名

アツサフミチタフリユテキス  
トイフルステレツキ 菌 荷

和産より物却れ二種の番あり其一種ハ形馬芥の葉に似たり莖五葉其葉一葉長三ありて粗き鋸齒ありこれ藜藿の説も苜蓿根葉酷似白芷と云もの小合り又一種ハ木木の如く葉互生して把把の如く藜藿西陽雜俎を引く木

長八九尺皮色青黄三月生葉似鼠耳無花実と云ふ小合り此二種の物の津液を採り膏とすものや船末の物数品あり先年蛮人へイスマル長崎へ持来中白褐色なりと黒色を雜へ臭氣ありと云ふも蒜臭とい異なり其膚密なりと栗の如く是真物なり本草原始不謂也又栗魏なり又茶褐色なり者あり真と偽と一を藜藿の説も苜蓿羅門云蒸渠即是阿魏と云ふとも蒸渠又興渠とも云茶部の胡荽なり阿魏胡荽とも不性臭なり能臭を止むと云ふルハ興渠ハ佛家禁食れり怨の如幸のつく猶茶部胡荽の下も阿魏と云物と云説ふれば別物なり然り此物漢土とも真物少く多くあり蒜を搗て他物をまじく偽充りの説多し真物を能見されハ船末の物や偽物多かりんてよく於て察せし

本草図譜 卷之十一



阿魏

羊木の物

木本の物



盧會

あだん

象臍

本草

アルエス

羅

アロエリニトリナ

蘆

蒼

臺

龍舌草

本邦古ハホ一近未琉球より渡り人家に培養し曰回より渡り阿咀呢  
ハ形状頗る似たりと別物なりあんの葉ハ長マ二三尺幅二三寸一幹小互生  
凡形薔薇の葉の如く白斑ありて圍り小角刺あり全体肥て厚く肉多く脂  
液甚粘滑なり夏月葉の同より三四尺の莖を抽て未穂を介り花も同  
く形竹の子より全く同く凡蘭蕉花に似てかく黄赤色あり此物熱國の  
産也(寒も恐る冬ハ穴中へ養ふ) 葉解小水脂の力あり云又草蘆蒼  
龍草の名ありを以て別種と云々ハ非なり今蠻人あなんより蘆蒼會を  
と云又統志に云凡證とありく一且寒を恐るや寒國の草の如く暖國に  
養ふ物ハ肥大なり其樹枝の如し然れハ樹と云と云可之本邦より日回  
紀及豆及序元等小裁るものハ枝を分つて樹と云あり

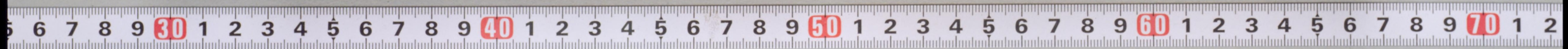




あびん

本草図譜 卷之八十一

廿六





本草図譜 卷之十一



本草図譜 卷之十一





本草図譜 卷之十一

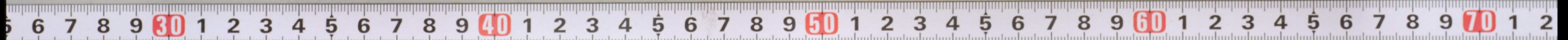
一種 同上

花淡紅色  
のもの



盧薺を製するものハ前々圖を以て其の内を皮を去り其間の津液を  
とり絞ルハ黄赤色の脂出たこれに陶器小入日乾をれハ膏とふる  
これを薬用とあり舶来の中にも数品あり 形態熊膽の如くやして大み  
外皮厚く内黒色肌細く光りありて味苦きと熊膽の如く瀝こせ  
帯るもの此真物なり 又形舍利の如く塊を以て黒色を帯て重く  
未とあり石の如きもの下品なりと雜りあるものを用多しと云ふは本邦  
あても偽物多きと必辨ひ用之 此物药用多しと云ふは狐を用せ此ハ  
死し又誤用をれハ吐血まじと云を見九ハ謹し用ん可也

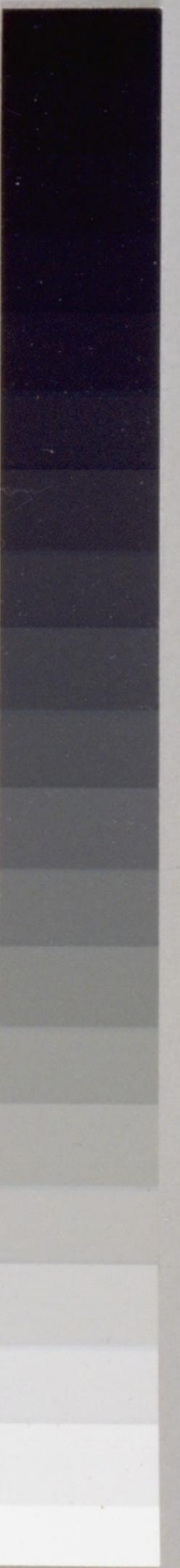
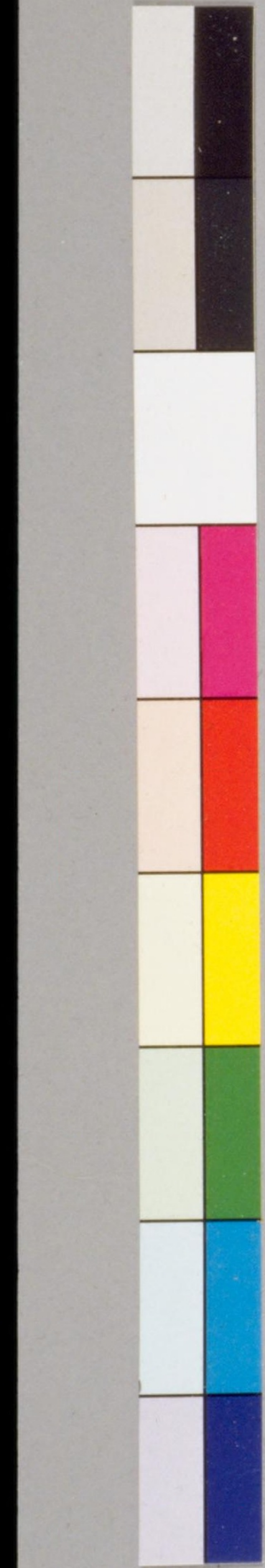
本草図譜 卷之十一





本草図譜 12冊 寄別9121

10-257



国立国会図書館